

天孫神社例祭

「からくり」は孔明祈水山



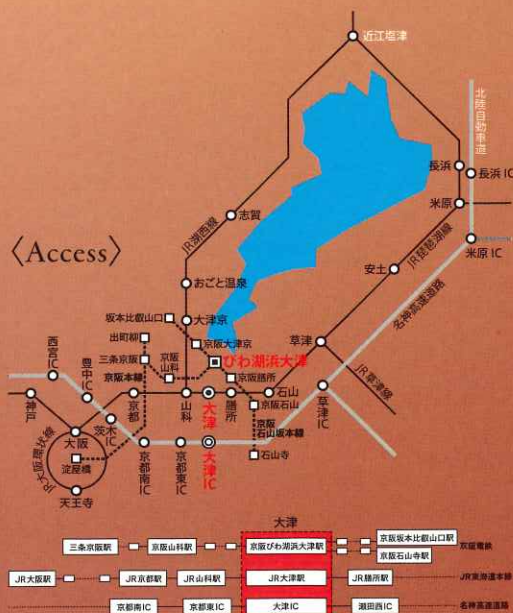
大津家

国指定重要無形民俗文化財

令和八年 2026

宵宮 10.10 [土] 夕刻-21:00頃

本祭 10.11 [日] 9:30-18:00頃



有料観覧席販売
インターネット販売 びわ湖大津観光協会



特定非営利
活動法人 大津祭曳山連盟



大津祭曳山巡行総合問合せ 077-525-0505 ※大津祭は滋賀県、大津市の補助金を受けています。

協賛：叶匠壽庵 森井眼科医院 滋賀銀行 琵琶湖汽船 琵琶湖ホテル

大津祭について

四百年の歴史と伝統を持つ大津祭は、湖国三大祭の一つで国指定重要無形民俗文化財に指定されています。曳山巡行は、豪華絢爛な13基の曳山が優雅なお囃子を奏でながら、からくり人形を操り、まちなかを巡行することで知られています。

宵宮(よみや)

本祭の前日、夕刻からは提灯に灯が入り、曳山の上ではお囃子が奏でられます。町内では曳山に乗るからくり人形や懸装品が公開されます。街中は夜九時過ぎまで賑わいます。

本祭(ほんまつり)

天孫神社に集合した曳山は、9時半頃に西行桜狸山が先頭で巡行を開始。巡行の途中で所望(しょうもん)の箇所「からくり」を演じます。

曳山巡行本囃順

不關取 西行桜狸山 鍛冶屋町

- 1 月宮殿山 上京町
- 2 龍門滝山 太間町
- 3 狸々山 南保町
- 4 湯立山 玉屋町
- 5 西宮蛭子山 白玉町
- 6 郭巨山
後在家町・下小唐崎町
- 7 源氏山 中京町
- 8 西王母山 丸屋町
- 9 孔明祈水山 中堀町
- 10 殺生石山 柳町
- 11 石橋山 湊町
- 12 神功皇后山 狹師町



～思い出を解き 未来を彩る～



株式会社 村建



塗装・防水事業 / リフォーム事業 / 解体・土木事業 / 足場事業

〒520-2123 大津市瀬田大江町13-18 TEL 077-572-6775 FAX 077-544-2165



これまでの100年、これからの100年へ



株式会社 中村組

事業内容：プラント事業 / 土木事業 / 建築事業 / 物流事業
解体 / 塗装・リフォーム / 業務請負 / 人材派遣業



〒520-2123 大津市瀬田大江町13-18 TEL 077-544-2160 FAX 077-544-2165

シ
グ
ト。
笑
顔
に
な
る

み
ん
な
が

DYNAMIC SHOKEN 株式会社 昭建 豊かな社会を築くものづくり

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津二丁目5-9 TEL 077-525-5131

滋賀県内塗装実績NO. 1



株式会社 コーティング企画

個人宅のリフォーム・外構工事・太陽光発電から
大規模な倉庫新設や工場塗装までお任せください。



〒520-3203 滋賀県湖南市日枝町101-37 TEL 0748-75-6888 FAX 0748-75-6886

50年、100年後も安心して住み続けられる住まい



YELL CORPORATION

新築 / 建替え / リフォーム

一級建築士事務所 エールコーポレーション株式会社
草津市北大萱町556番地の2 TEL/077-568-3190 FAX/077-568-3773



“びわ湖”の代表的なエンターテインメントクルーズ船
ミシガンクルーズ
大津港 におの浜観光港 柳が崎湖畔公園港

伝説とパワースポットの島“竹生島”を訪ねる
竹生島クルーズ
今津港 長浜港

●お問い合わせご予約はホームページまたは
琵琶湖汽船予約センター(9:00~17:00)
TEL.077-524-5000

KEIHAN
琵琶湖汽船

こちら高齢者住まいのサポートセンター

こちすま

こちすまサポーター
JUNON 14 ACADEMY 代表
元京都サンガ F.C. / 元レイラック滋賀 FC
國領 一平

大津の伝統文化を次代に繋いでいくために
私たちも応援します。



We Serve! (われわれは奉仕する)

大津びわこ比叡ライオンズクラブ



BONDS ACADEMY

武士の心で走る、外国人ドライバー育成の道場。



さいぎょうざくらたぬきやま
西行桜狸山
關取らず 鍛冶屋町



寛永十二年（一六三五）

塩売治兵衛が狸面を被って踊った事が発祥となった大津祭最初の曳山。明暦二年に西行法師が桜の精と問答を交わすカラクリを採り入れ、西行桜狸山となった。曳山の祖となった狸は屋上に載せられ、祭の先導をする守護となった。このため、この山はくじを取らずに毎年巡行の先頭を行く。所望は、古木から桜の精が現われ西行法師と問答をする。

しょうじょうやま
猩々山
南保町



寛永十四年（一六三七）

能楽の「猩々」から取材したもの。むかし唐の国の楊子の里に住む高風という親孝行の者がいた。ある夜夢に「楊子の町に出て酒を売れ」と教えられ、売っていると、海中に住む猩々から、酌めども尽きず、飲めども味の変らない酒の壺を与えられたという。所望は高風が酌をし、猩々が大盃で酒を飲み干すと、たちまち顔が赤く変わる。

せいおうぼざん
西王母山
九屋町



明暦二年（一六五六）

謡曲の「東方朔」から取材したもの。むかし崑崙山に住む西王母という仙女が舞い降り、帝に桃の実を捧げ、長寿を賀した。この桃は三千年に一度花が咲き、一個しか実らない貴い桃であった。ここから俗に「桃山」と呼ばれる。所望は桃が二つに割れ、その中から童子が現れて所作をする。これは桃太郎話に加味されたものとも云われる。

にしのみやえびすやま
西宮蛭子山
白玉町



万治元年（一六五八）

町内の伝承では、古くから西宮の蛭子を祀っていたが、後に曳山に載せるようになり、鯛を釣りあげた蛭子に商売繁昌の祈りを込めるようになったとある。所望はえびすさんが鯛を釣り上げる所作で人気がある。この所作から俗に「鯛釣山」と呼ばれている。創建当初は宇治橋姫山と称していたが、延宝三年以後、いまの西宮蛭子山となった。

せつしょうせきざん
殺生石山
柳町



寛文二年（一六六二）以前

能楽の「殺生石」から取材したもの。鳥羽院に寵愛された玉藻前は、実は金毛九尾の狐で帝の生命を奪おうとしていたのを安部泰親に見破られ、東国に逃れ、那須の殺生石となって旅人を悩ましていたが、玄翁和尚の法力によって成仏したという。所望は玄翁和尚の法力によって石が二つに割れ、女官姿の玉藻前が現れ、その顔が狐に変わる。

ゆたてやま
湯立山
玉屋町



年未詳（寛文中湯立山）

天孫神社の湯立ての神事はこの山から捧げるとい、曳山は天孫神社を型どり、周りはその廻廊を真似たものである。所望は称宣がお祓いをし、市殿が笹で湯を奉り、巫女が神楽を奏する昔からこの湯をかけたれたものは五穀豊穡、病氣平癒、商売繁盛など縁起がよいという。創建当初は孟宗山といっていたが寛文年間には湯立山となった。

かつきよやま
郭巨山
後在家町 下小唐崎町



元禄六年（一六九三）

郭巨は中国二十四孝の一人。家は貧しく、子供が生まれて老母は自分の食を減らして孫に与えねばならなかった。「子供は又得られぬが母は再び得ることとはできない」と、郭巨は妻と相談し、子供を土中に埋めようとして穴を掘ったところ、そこから黄金の釜が出てきたという故事による。所望は、郭巨が鍬で土を掘ると黄金の釜が出てくる。

こうめいきすいざん
孔明祈水山
中堀町



元禄七年（一六九四）

蜀の諸葛孔明が魏の曹操と戦ったとき、流れる水を見て「敵の大軍を押し流して下さい」と水神に祈り大勝をした故事によるが、古い資料には、水に渴した孔明が趙雲に命じ、土を掘らせたら泉が湧いた、ともある。所望は、孔明の前に立つ趙雲が鉢で岩を突くと、こんこんと水が湧き出し、それを見た孔明が羽扇をうち振り喜ぶ様をあらわす。

しゃつきょうざん
石橋山
湊町



宝永二年（一七〇五）

謡曲の「石橋」に取材したもので、大江定基入道寂昭が宋の国に渡り、清涼山にある文殊菩薩の浄土に続く険しい石の橋を渡るうとしたとき、文殊菩薩の使いである獅子が岩の中から現れて、牡丹の花に舞い戯れるのを見たというもの。所望は、岩が開き、僧寂昭の前に唐獅子が歩み出てきて牡丹の花に戯れ遊んだあと、岩の中に戻ってゆく。

りゅうもんたきやま
龍門滝山
太間町



享保二年（一七一七）

黄河の上流の龍門山の滝。魚は登ることができないが、もし登る魚があれば、昇天して龍になるという故事に因んでいる。登竜門という語はここから出たもの。所望は龍門の滝を鯉が躍り上がる所を見せる。鯉の滝登りは曳山のからくりとして、は他に例がなく、たいへん貴重なもの。見送りはベルギーのタペストリーで重要な文化財に指定されている。

げんじやま
源氏山
中京町



享保三年（一七一八）

紫式部の「源氏物語」をテーマにしたもの。大津祭の曳山の中で、唯一大津に由来したカラクリを採り入れたものである。紫式部人形の十二単や曳山を飾る部品の、欄干を見ると平安の昔を偲ばせるつくりで、女性的なデザインである。曳山に乗る緑色の岩は石山寺の観月台を模し、所望は紫式部が月を見ながら構想を練る様子を表現している。

じんぐうこうごうやま
神功皇后山
狼師町



寛延二年（一七四九）

神功皇后が戦前に先立ち、鮎を釣り戦勝を占ったとされる伝説に因む。神功皇后は当時懐妊されていたが、戦さが終わった後、応神天皇を無事出産されたことから「安産の山」として信仰されている。所望は、皇后が岩に弓で字を書く所作をするべく、岩に次々と文字が現われてくるからくりとして、文宇書きからくりとしては漸新な機構とされている。

げつきゅうでんざん
月宮殿山
上京町



安永五年（一七七六）

謡曲の「喜多流月宮殿」から取材したもの。唐の皇帝が長生殿で新年を祝う節会を催され、世を寿がれたというもの。所望は、鶴と亀の冠をつけた男女の舞人が、皇帝の前で舞を舞う。そこから俗に鶴亀山とも呼ばれる。ベルギー製で重要な文化財の見送り幕を所有するが、現在は平成十一年十月に復元新調されたものを使用している。

かぐらやま
神楽山
宵宮飾り 堅田町



寛永十四年（一六三七）

三輪明神を祀っていたことから、創建当初三輪山と称していたが、享保九年に改造され神楽山となった。安政六年を最後に巡行しなくなり、現在は三輪明神・市殿・禰宜・飛屋の四体の人形と、中国清代初期の官服を仕立てた見送幕、前懸幕の「耕織図刺繍」が宵宮と本祭の両日、堅田町内に飾られる。

ほてい
布袋ねりもの
宵宮飾り 新町



元禄六年（一六九三）以前

ねりものとは今でいう仮装行列で、江戸時代の大津祭には、多くの氏子町からねりものが出されていた。新町の布袋は、元禄六年の記録に登場することから、それ以前の創建であることがわかる。現在、宵宮と本祭に町内で飾られる布袋の人形は、文化七年に新調されたもの。全高二メートルを超え、かつては人が中に入って練り歩いた。

みこし
御輿
下百石町



寛政九年（一七九七）以前

寛政九年の伊勢参宮名所図会に「御輿祓いの日に百石町より紙の御輿を出す」とある。この頃の御輿は、フスマのような紙貼りの神輿であった。弘化二年に神輿の新調があったという記録があり、現在の神輿の鳳凰や環珞は、この時のものである。昭和三十年代までには、天孫神社の神輿とともに渡っており、国指定を機に渡御が復活した。

ボランティア受け入れ会場提供のご支援

大津市立中央小学校 大津市中央市民センター
旧大津公会堂



天孫神社のお知らせはこちら
<http://www.tensonjinja.jp>

大津祭見て歩きマップ

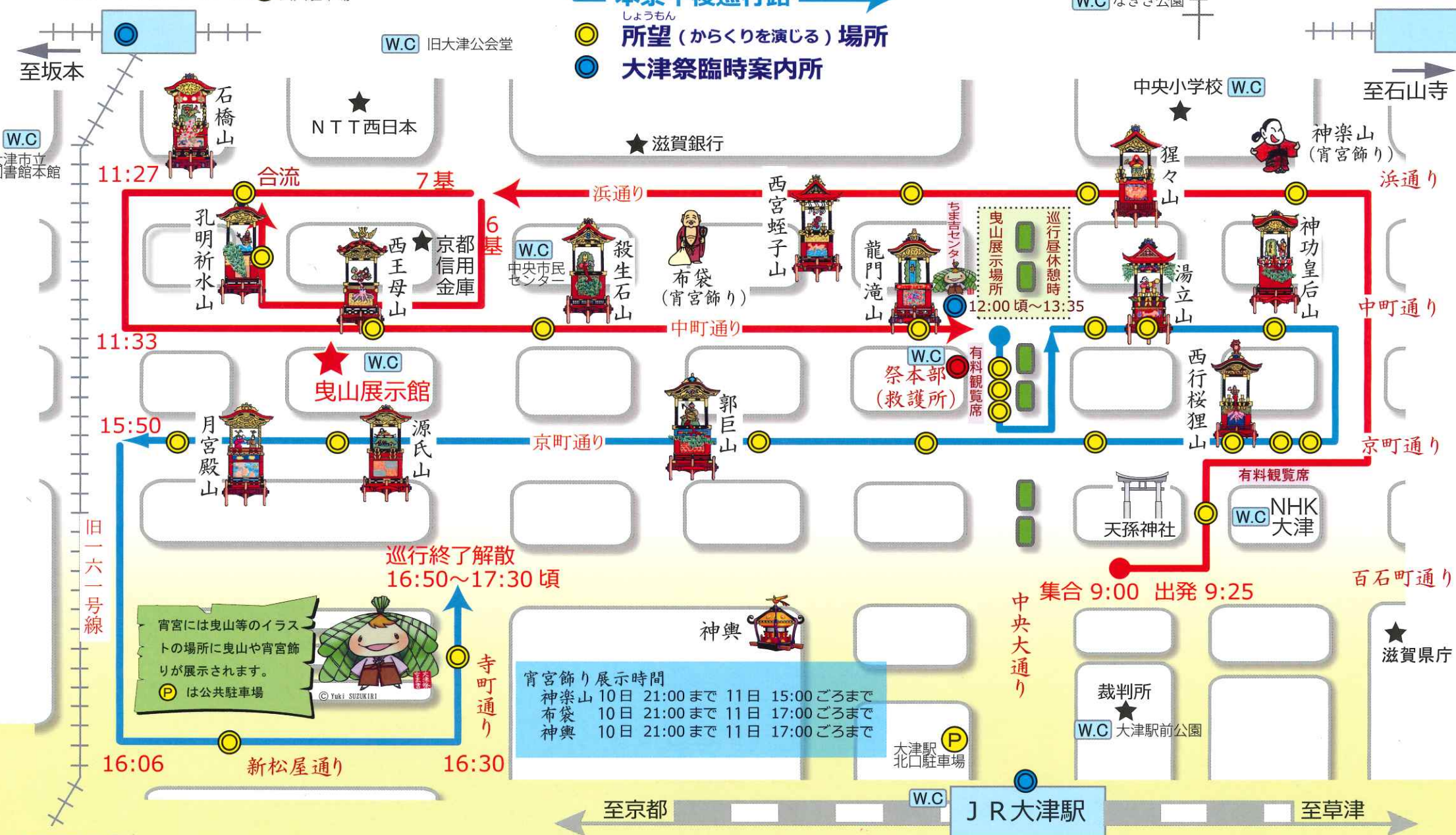
琵琶湖

W.C 明日都浜大津
P 京阪びわ湖浜大津駅 P 浜大津公共駐車場

- 本祭午前巡行路 —
- 本祭午後巡行路 —
- 所望（からくりを演じる）場所
- 大津祭臨時案内所

W.C なぎさ公園

京阪島ノ関駅



曳山イラスト：梅村 真司